

2024年度  
在学生学修成果  
アンケート

実施レポート

2024年9月30日

担当：教務課

# 1. アンケート実施について

## (1) アンケート実施時期

2024 年 7 月 17 日～8 月 6 日

## (2) 回答人数

合計 543 名 学部生:534 名 大学院:9 名  
全学生 1,782 名中 543 名(30.4%) ※昨年 52.9%

## (3) アンケート項目

■在学生学修成果アンケート項目	■分類	■対応 DP
1. 主体的に学ぶ力	学修成果	DP①
2. 専門分野の知識	//	DP②
3. 外国語能力	//	DP③
4. 日本語・数学などの基礎能力	//	DP②+DP⑥
5. コミュニケーション能力	//	DP④
6. プレゼンテーション能力	//	DP④
7. 地域や社会に貢献する意識	//	DP⑥
8. 情報収集・活用力	//	DP⑤
9. 問題発見能力・課題解決能力	//	DP⑤
10. 幅広い教養	//	DP⑥
11. 論理的思考	//	DP⑤+DP⑥
12. 予約・復習・課題などは主にどこで行っていますか	学修時間, 行動	
13. 授業外時間の学習時間	//	
14. アルバイト・サークス活動時間	//	
15. GPA 意識	//	
16. 学修相談相手	//	
17. 授業を休む理由	//	
18. 大学の学びによる成長について	大学について	
19. 教員が学生と向き合って教育に取り組んでいるか	//	
20. 北海道情報大学を母校に薦めたいか	//	
21. カリキュラム(教育内容)に満足しているか	//	
22. 大学に満足しているか	//	

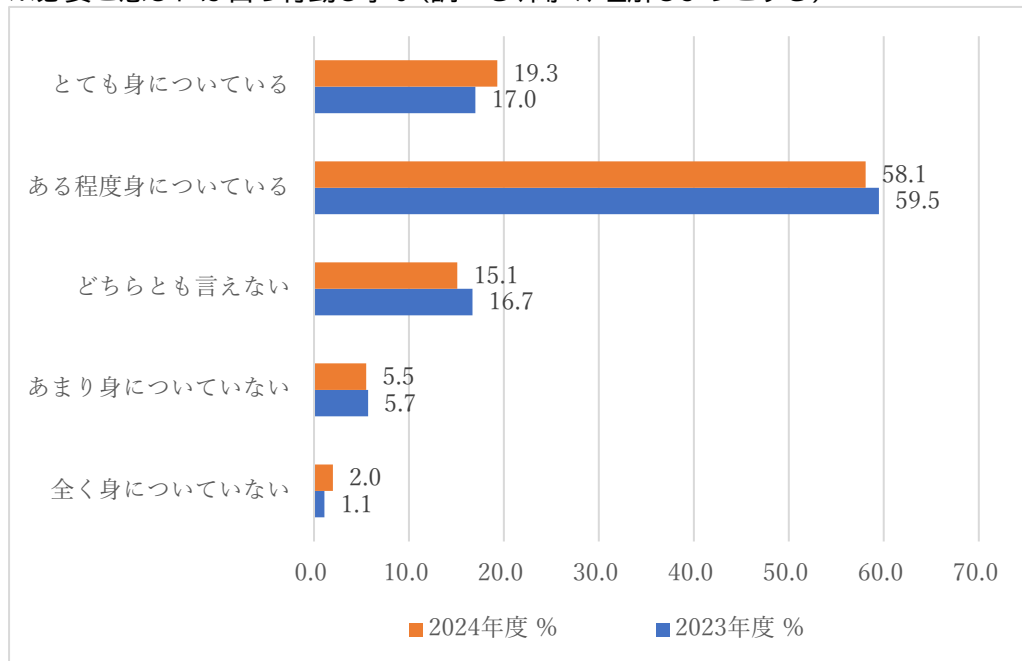
## (4) アンケート周知方法

- ・Web ポータルに掲示(複数回にわたる周知)。
- ・メールでの周知: 全 2 回実施(7 月 17 日、7 月 30 日)。  
※2023 年度は8回の周知を実施したところ、学生からクレームが入ったため今年度は周知回数を最小限とした

## 2. アンケート回答結果

### 1. 主体的に学ぶ力

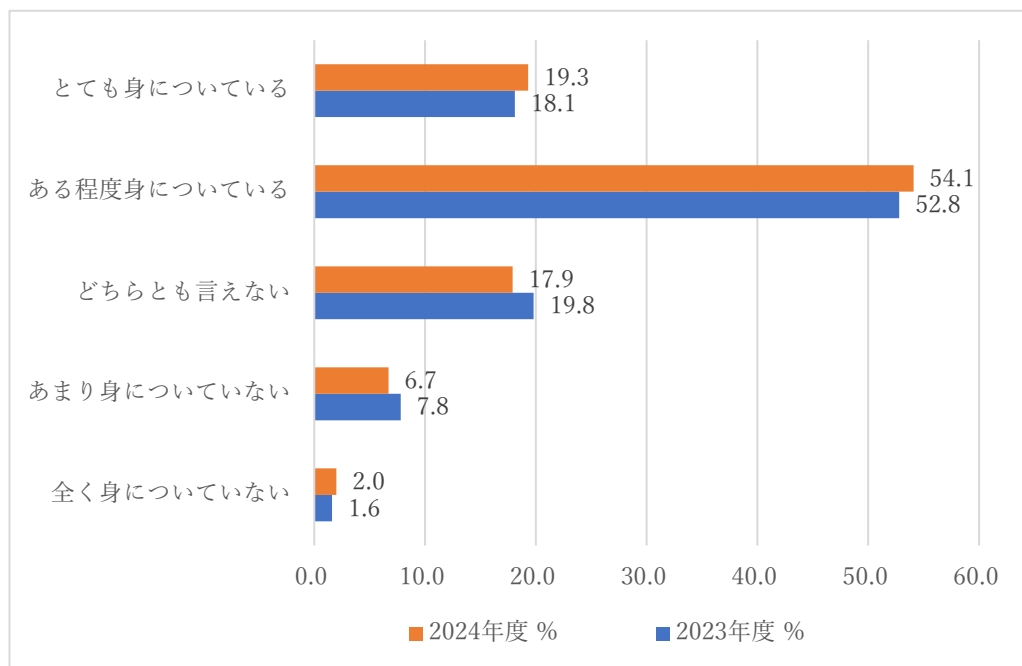
※必要と感じれば自ら行動し学ぶ(調べる、聞く、理解しようとする)



#### 【コメント】

77.4%が「ある程度・とても身についている」と回答しており、DP の『生涯にわたって自ら主体的に学ぶ力』は身に付いていると判断する。

## 2. 専門分野の知識

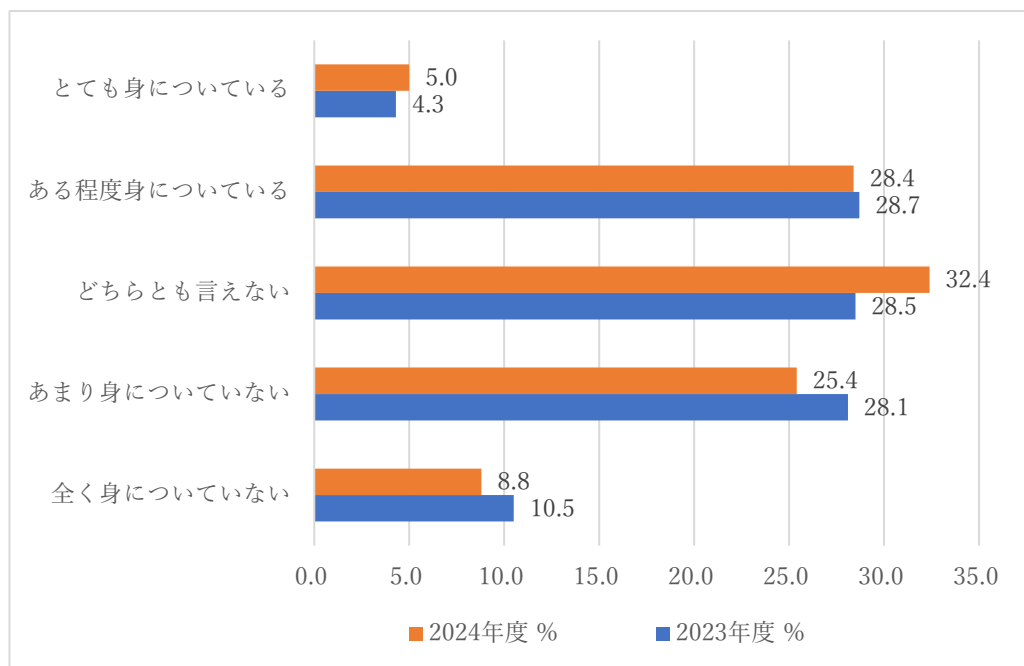


### 【コメント】

73.4%が「ある程度・とても身についている」と回答しており、DP の『IT 社会に役立つ高度な情報技術と専門知識』が身に付いていると判断する。

### 3. 外国語能力

※英語を読む、聞く、書く、会話する

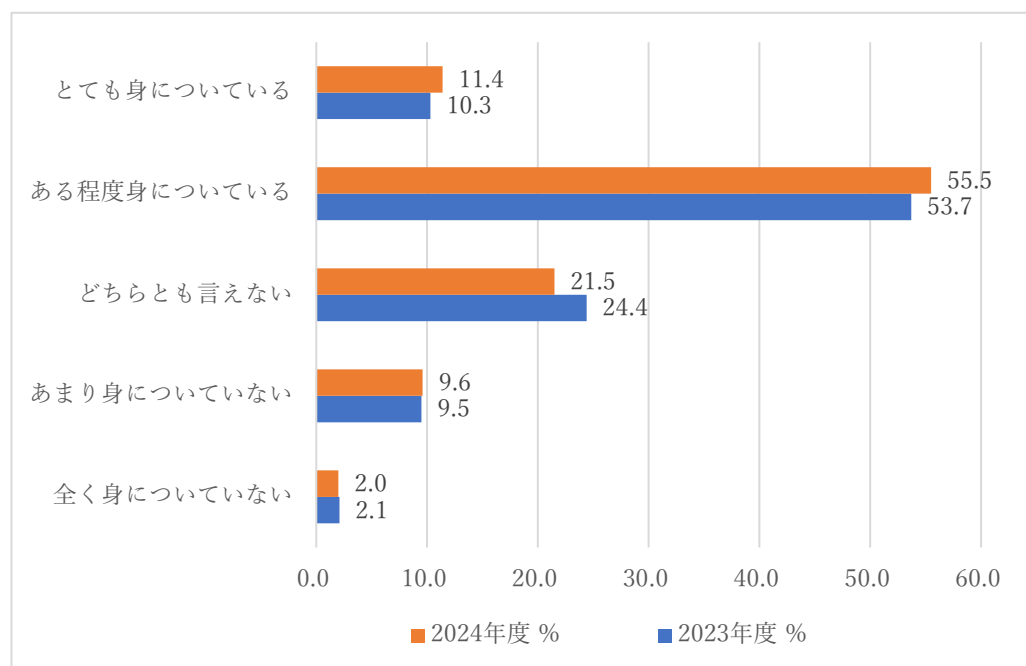


#### 【コメント】

「どちらとも言えない」「あまり・全く身についていない」とした学生が 66.6%と多い。DP の『国際感覚やモラルなど豊かな人間性』に向けて、外国語(特に英語)能力を向上させる授業内容を検討する必要がある。

ただし、「とても身に付いている」と回答した割合が若干改善(4.3%→5.0%)されている。

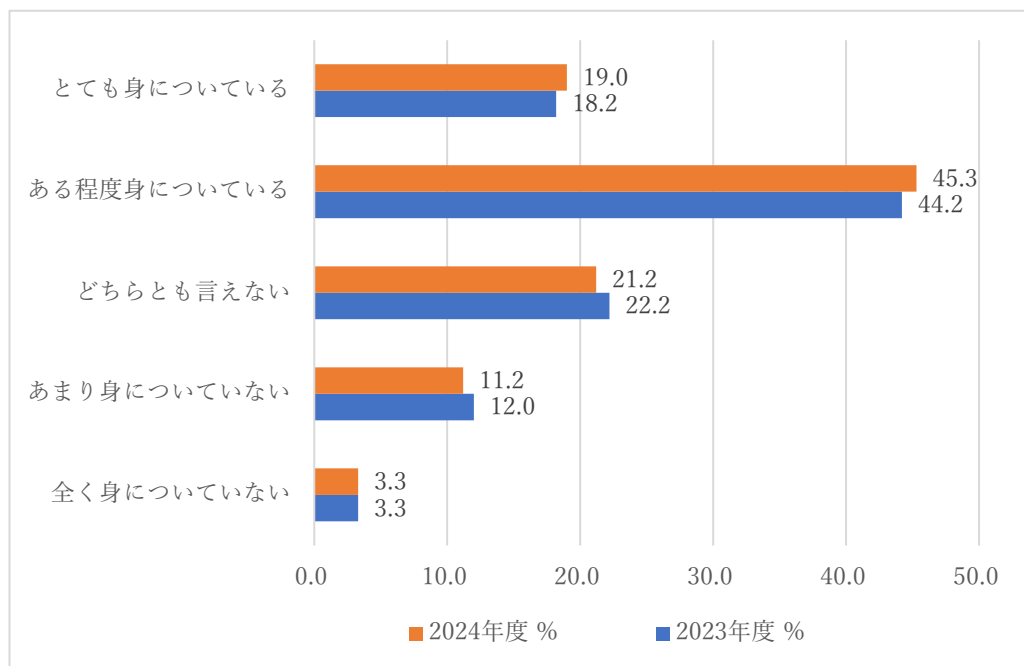
#### 4. 日本語・数学などの基礎能力



#### 【コメント】

66.9%が「ある程度・とても身についている」と回答しており、DP の『自ら問題を見つけ出し、情報技術を活用し自身で工夫できる問題発見・解決能力』、『知識のみではなく、生きるための知恵』が身に付いていると判断する。

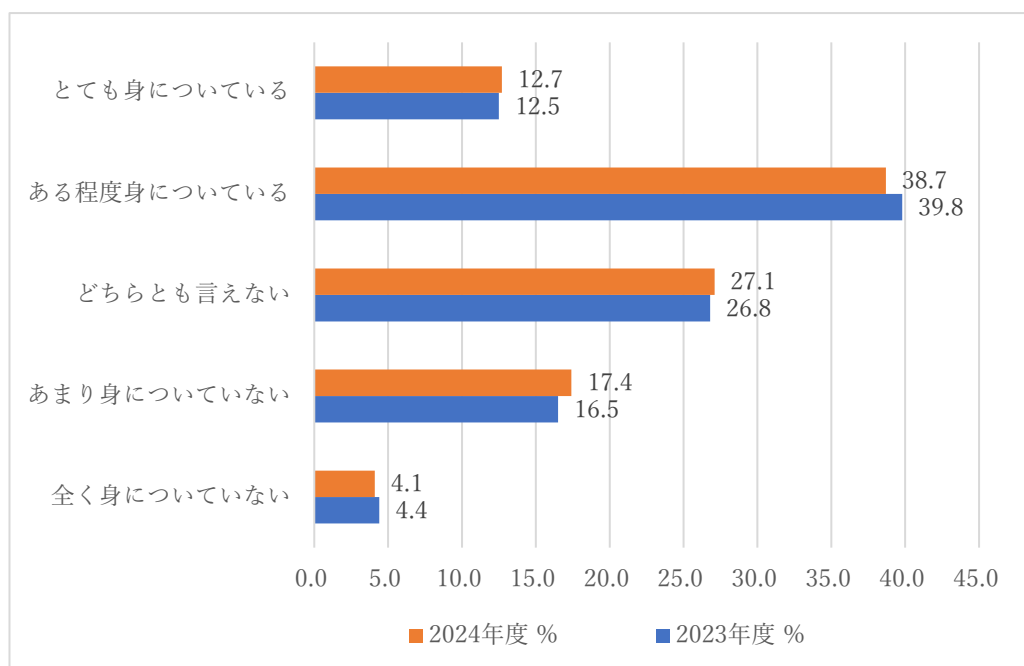
## 5. コミュニケーション能力



### 【コメント】

64.3%が「とても・ある程度身についてる」と回答しており、DP の『コミュニケーションとプレゼンテーション能力』が身に付いていると判断する。

## 6. プレゼンテーション能力

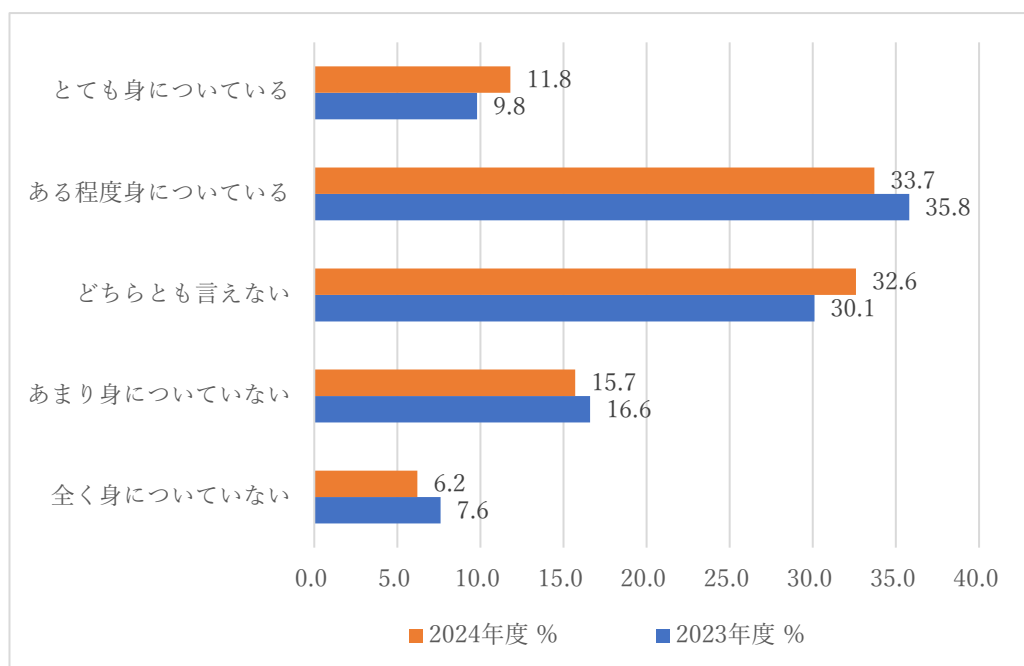


### 【コメント】

「どちらとも言えない」「あまり・全く身についていない」とした学生が 48.6%と半数近くになっており、DP の『コミュニケーションとプレゼンテーション能力』に向けて、授業にプレゼンテーション実践および適時フィードバックする等の機会を多く与えることが必要である。



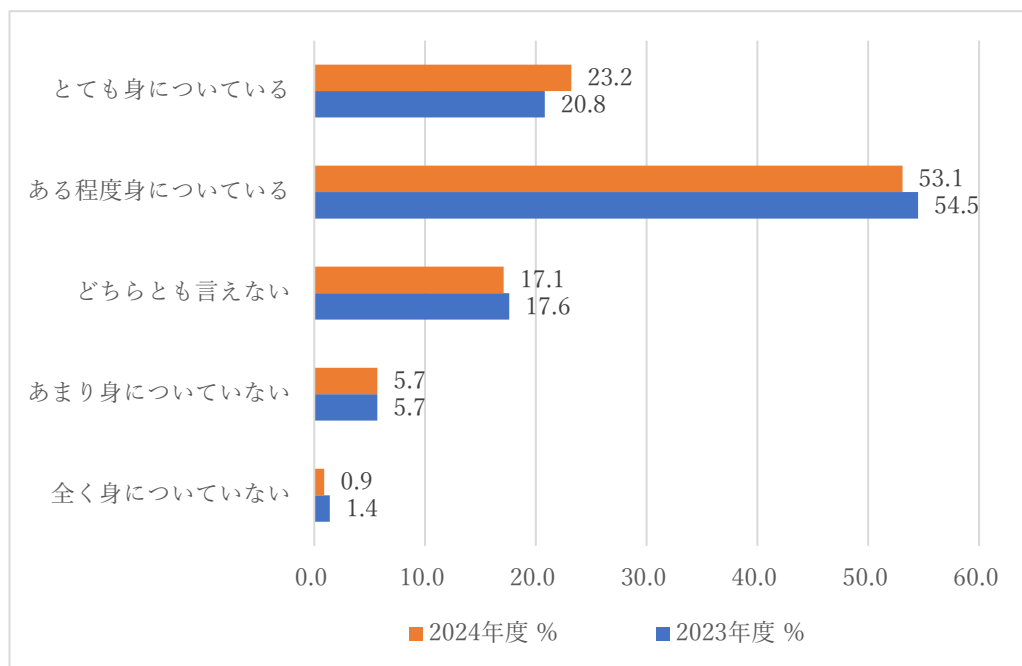
## 7. 地域や社会に貢献する意識



### 【コメント】

「どちらとも言えない」「あまり・全く身についていない」とした学生が 54.5%と半数を超えているため、DP の『知識のみではなく、生きるための知恵』に向けて、社会情勢への興味・関心や地域の課題・解決・応用の実地体験を通じた意識作りが必要である。

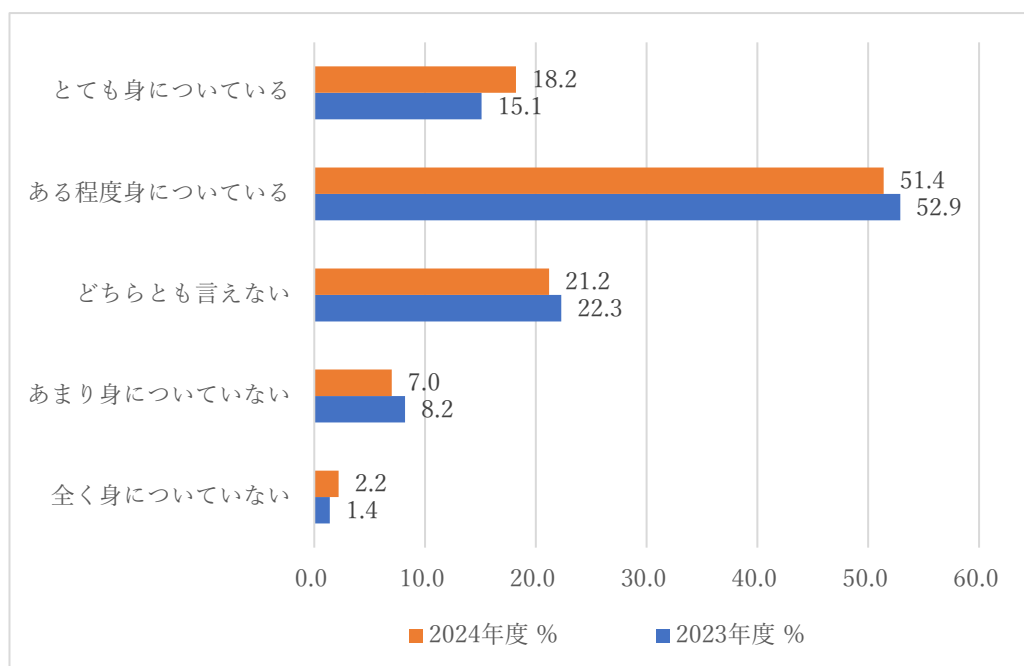
## 8. 情報収集・活用力



### 【コメント】

76.3%が「ある程度・とても身についている」と回答しており、DP の『自ら問題を見つけ出し、情報技術を活用し自身で工夫できる問題発見・解決能力』は身に付けていると判断する。

## 9. 問題発見能力・課題解決能力

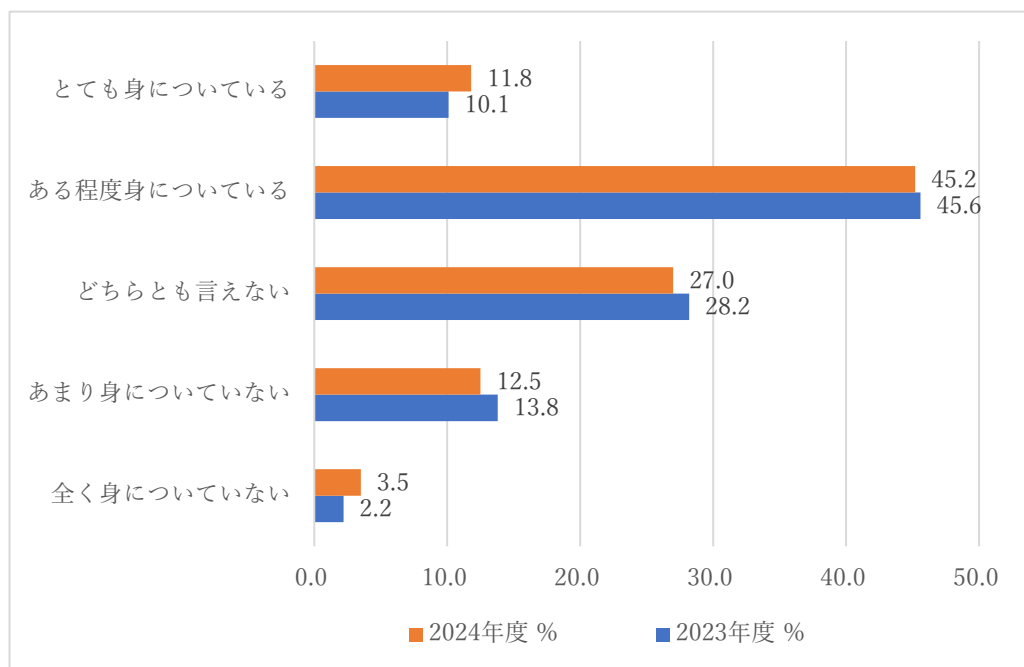


### 【コメント】

69.6%が「ある程度・とても身についている」と半数以上が回答しており、DP の『自ら問題を見つけ出し、情報技術を活用し自身で工夫できる問題発見・解決能力』を身に付けていると判断する。

## 10. 幅広い教養

※文化的な幅広い知識

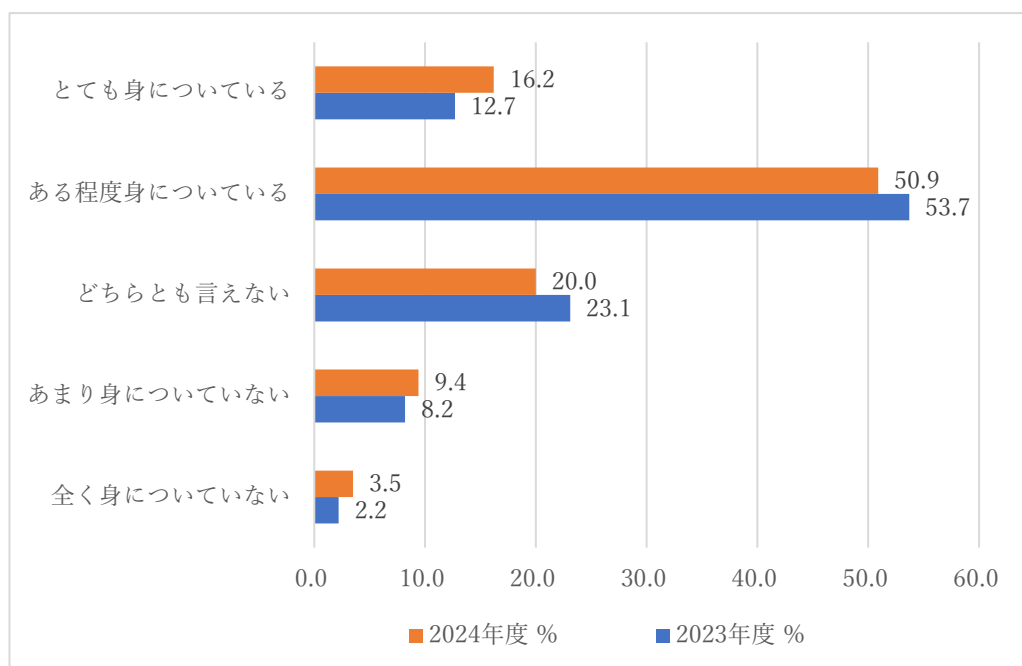


### 【コメント】

57.0%が「ある程度・とても身についている」と回答しており、DP の『知識のみではなく、生きるための知恵』を身に付けていると判断する。

## 11. 論理的思考

※物事を筋道(計画)立てて考える力



### 【コメント】

67.1%が「ある程度・とても身についている」と回答しており、DP の『自ら問題を見つけ出し、情報技術を活用し自身で工夫できる問題発見・解決能力』、『知識のみではなく、生きるための知恵』を身に付けていると判断する。

### 3. アンケートからみる3つのポリシーを踏まえた適切性

学修成果アンケートのうち、ディプロマ・ポリシー(DP)記載の能力が身につけたレベル(5段階)に関するアンケート(11問)について分析した結果を示す。分析においては、アンケート回答(身についたレベル)に応じて1～5点を付与し、各 DP のスコアを関連する問の平均点の加重平均により求めた(図1)。

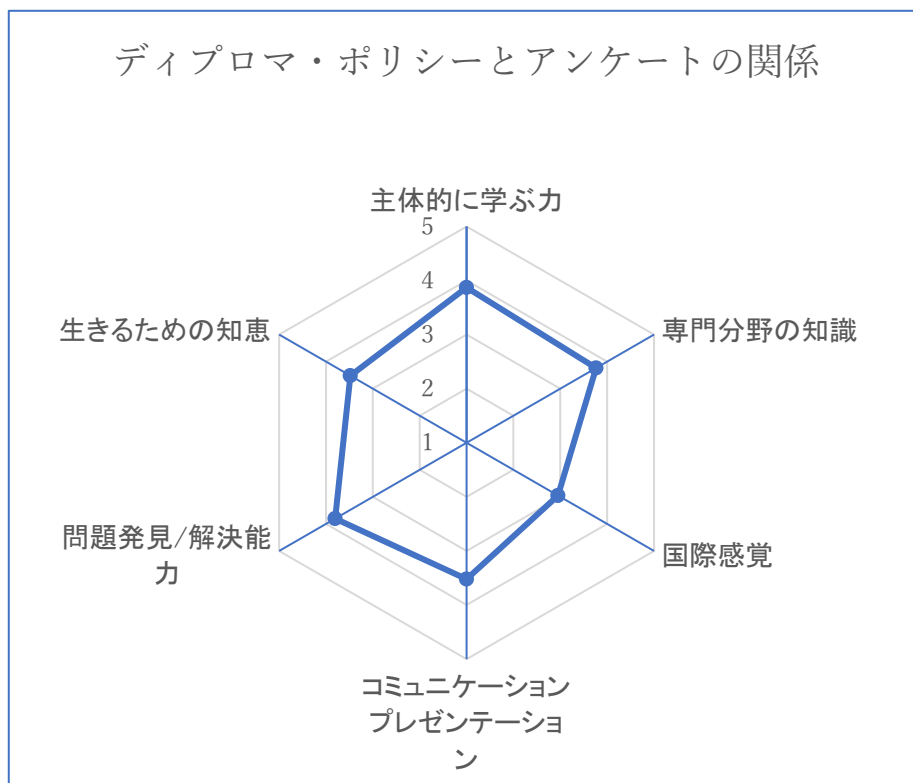


図1. ディプロマ・ポリシー(DP)とアンケート

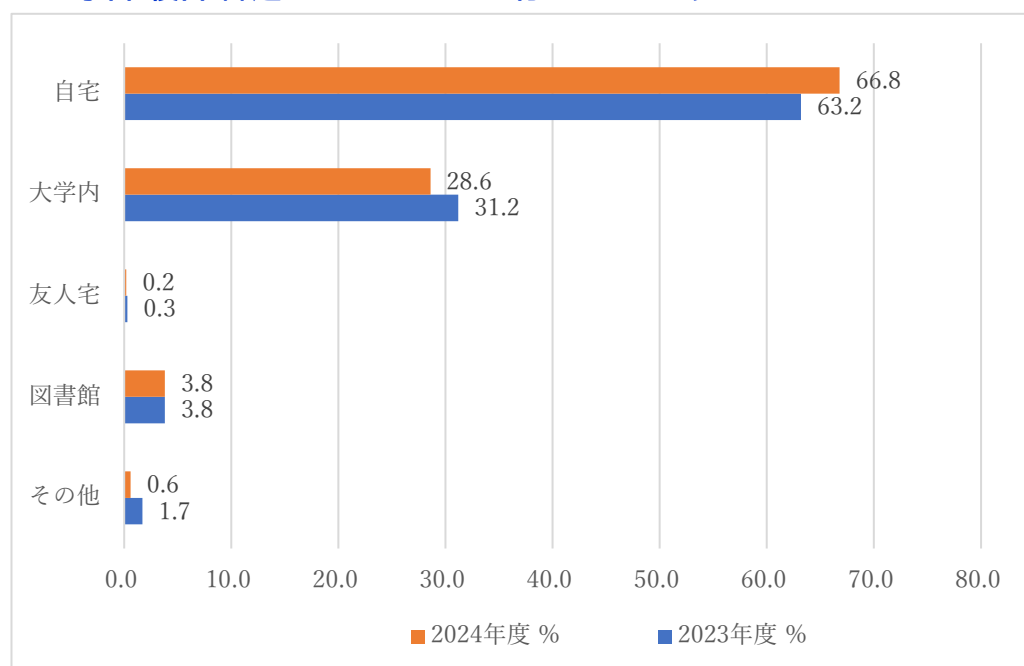
DP3(国際感覚)のスコアは 2.95(昨年度 2.89)と低く、1つのレベルで表現すれば「どちらとも言えない」と学生が感じ、他の DP については 3.4 以上であることから、「ある程度以上身につけている」と感じる学生が多い。

このことからディプロマに関する能力を身につけるためのカリキュラム・ポリシーは DP3 に関するものを除いて適切であると考ええる。また、アドミッション・ポリシーについても同様に DP3 を達成すること以外については問題ない。

この結果を受け、DP3 に関わる英語教育について見直しを行い、学生にとって能力が身についたと感じられるよう改善を図ることを提言する。

今回のアンケートでは「日本語・数学などの基礎能力」について問う質問を含めおり、その回答の平均点が 3.65 と高かったことから、英語教育に何らかの問題があると考えられる。各学生に合った教材あるいは課題を用いるなどの工夫が必要である。

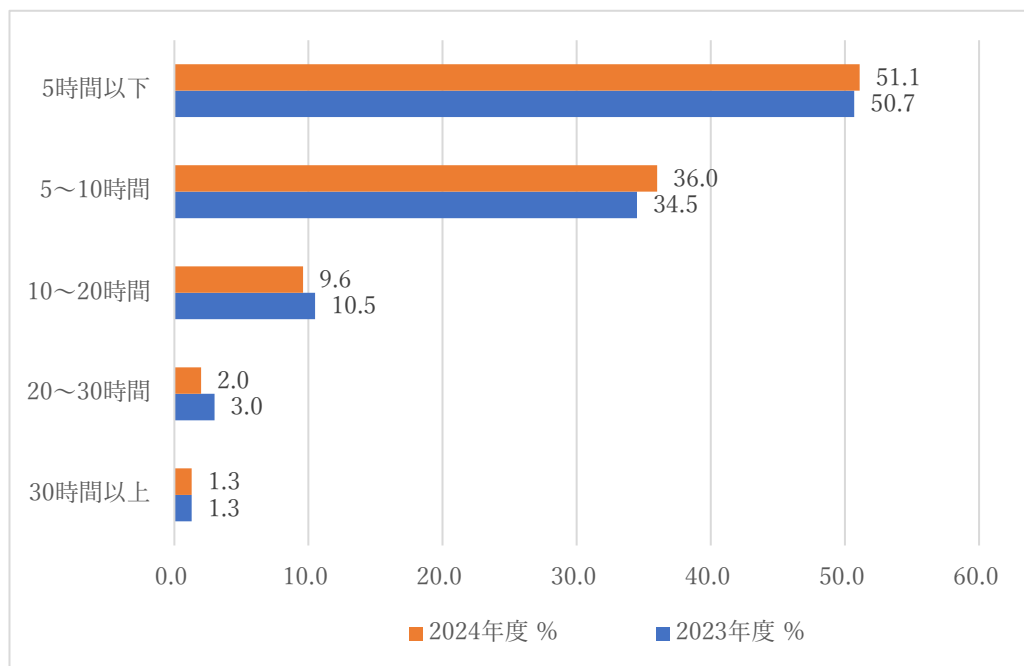
## 12. 予習・復習・課題などは主にどこで行なっていますか



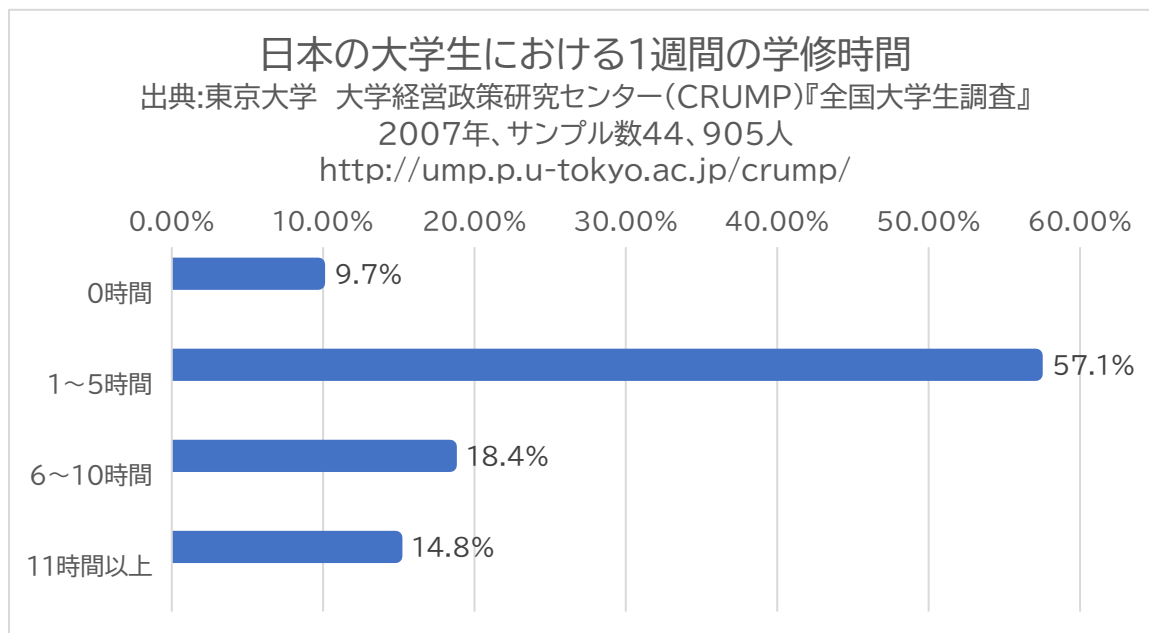
### 【コメント】

66.8%と多くの学生が自宅で学修している。

### 13. 授業時間外(時間割登録外)での1週間の学習時間を教えてください(ゼミ活動,予習・復習を含む)



(参考資料)日本全体の大学生の1週間の学修時間



#### 【コメント】

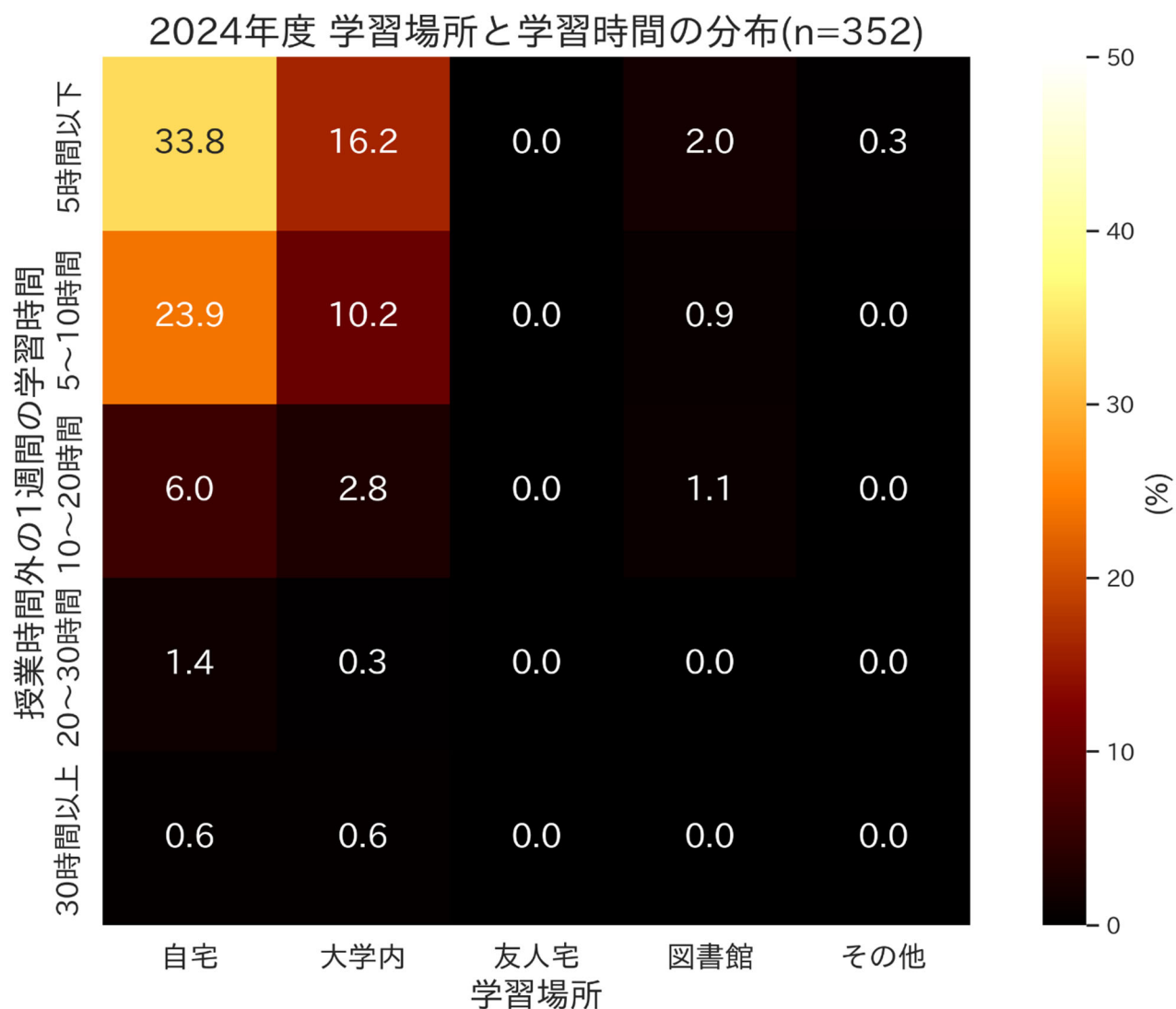
学修時間は日本全体の大学生と比べても本学生は平均的である。

※IR 分析(①)を参照



◆IR分析(①)

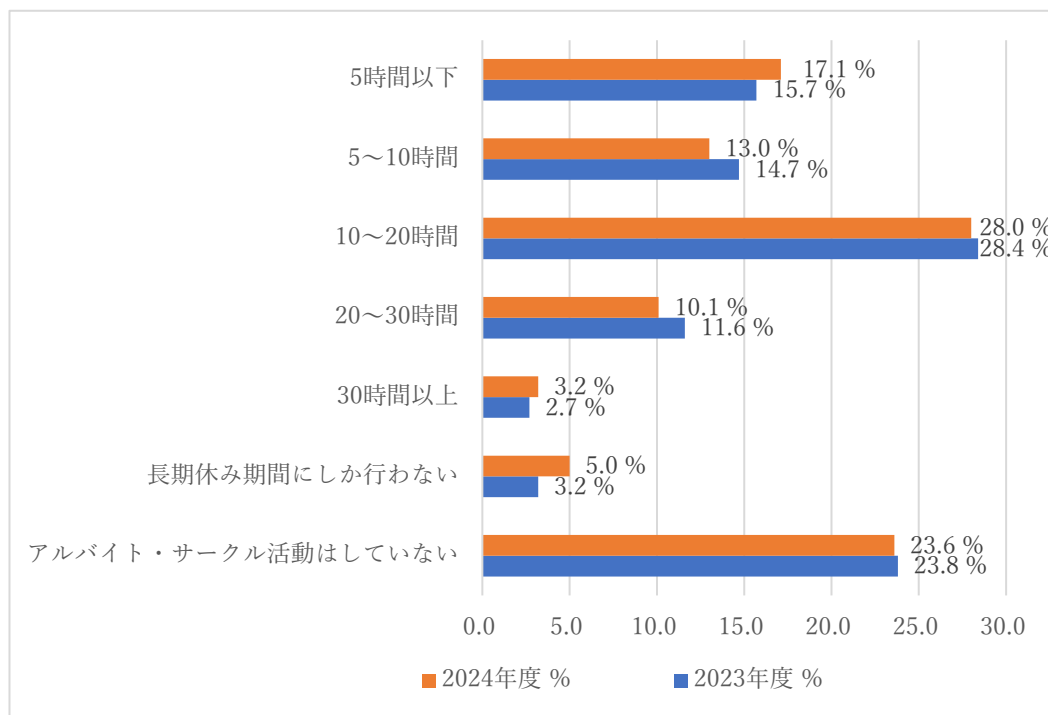
学習場所と授業時間外の学習時間の分布をヒートマップで示した。(図①)



前年度から、ほとんど変化はない。

「自宅」での学習時間が大勢を占めており、次に「大学内」が続く。「自宅」「大学内」とともに、学習時間が長くなるにつれて、割合は減少する。

#### 14. アルバイト・サークルでの1週間の活動時間を教えてください

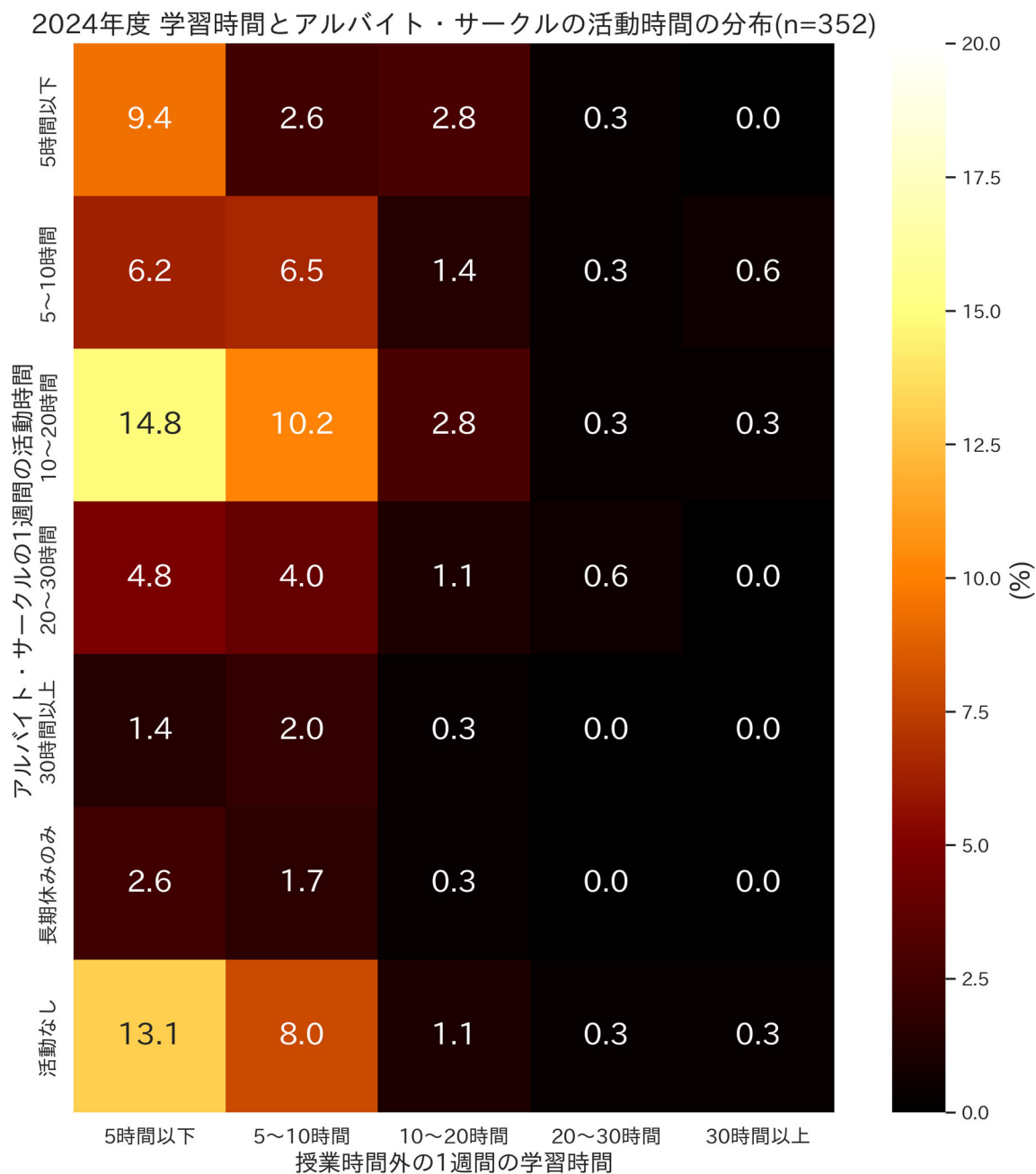


#### 【コメント】

※IR 分析(②)を参照

## ◆IR分析(②)

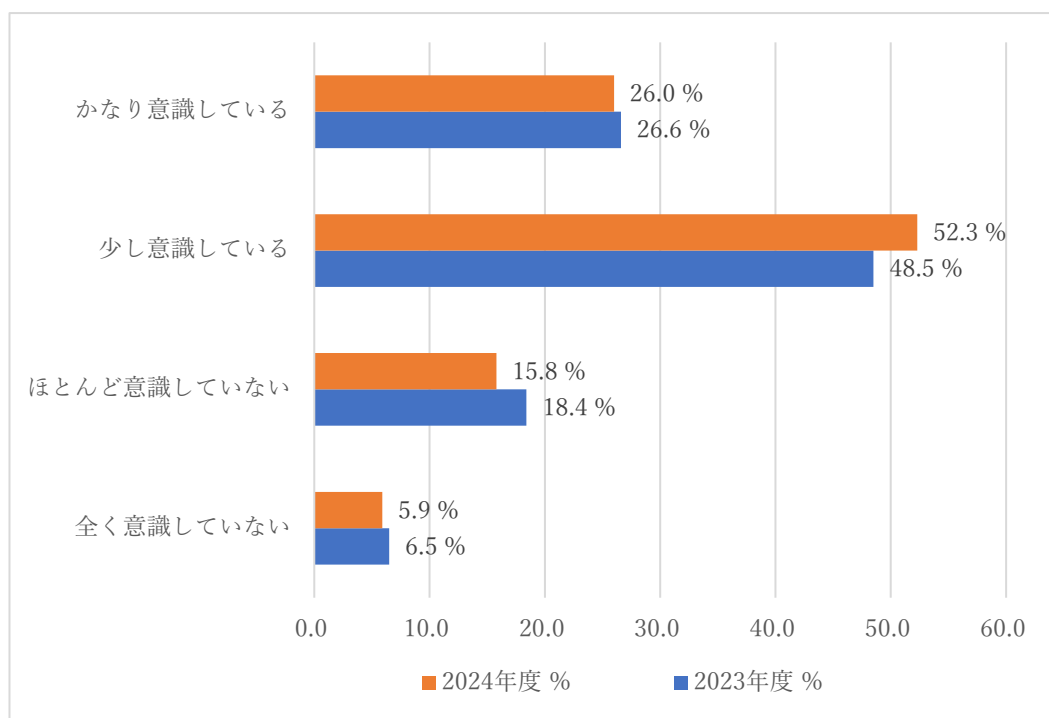
学習時間とアルバイト・サークルの活動時間の分布をヒートマップで示した。(図②)



アルバイト・サークルの活動時間に関して「活動なし」を除く回答者の学習時間は、アルバイト・サークルの活動時間より短い傾向がある。生活の軸がアルバイト・サークル活動に寄っていることが想像される。有意義な学生生活を送れるように、金銭的に困窮している学生の把握と支援、効率的な時間の使い方のレクチャーなどを実施する必要がある。

「活動なし」の学生について、時間的余裕はあると思われるが、学習 10 時間以下が大勢を占めている。学習時間の増加や充実した学生生活を促すため、学生の興味を喚起する講義や大学イベントを提供する。

### 15. GPA を高くすることを意識して講義に取り組んでいますか



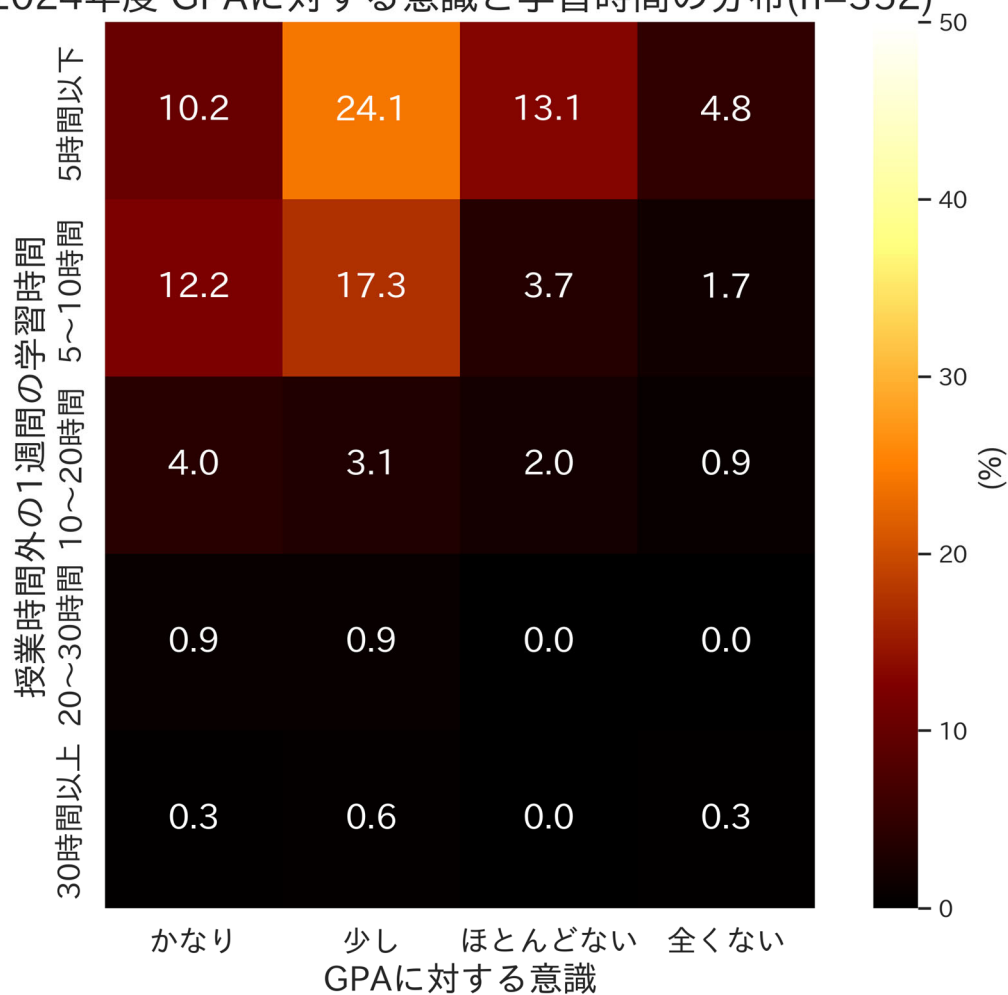
#### 【コメント】

GPA を「少し・かなり意識している」と回答した学生は 78.3%となり、学生のモチベーションなどの観点から良い傾向である。

◆IR分析(③)

GPA に対する意識と学習時間の分布をヒートマップで示した。(図③)

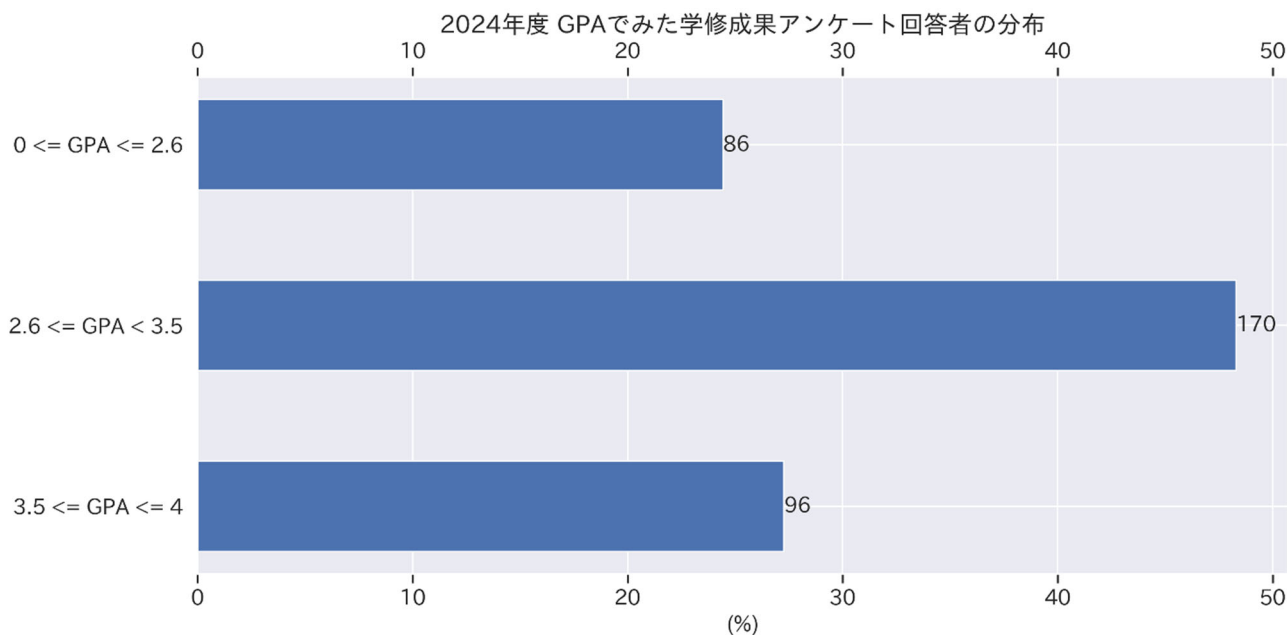
2024年度 GPAに対する意識と学習時間の分布(n=352)



GPA に対する意識に依らず、学習時間 5 時間以下が大勢を占める。ゼミ配属や就職活動を通して、学生にとっての GPA の意義を高める必要がある。それにより、学生の学習時間の増加を期待できる。

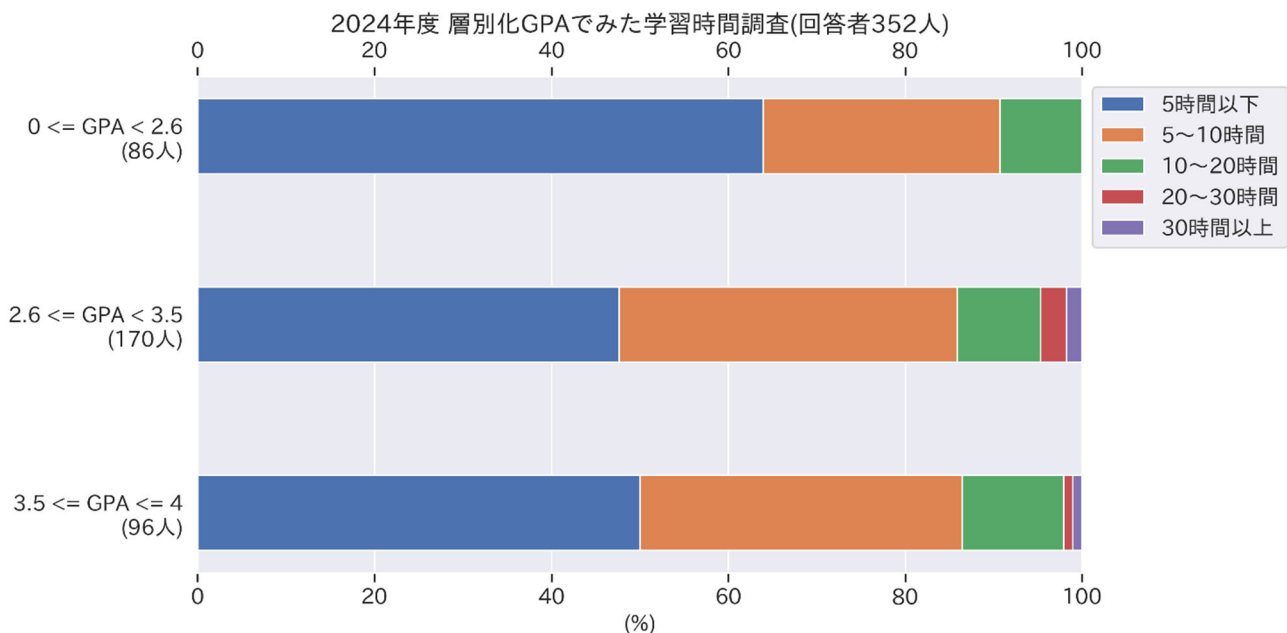
## ◆IR分析(④)

(1)層別化 GPA でみた回答者数の分析(参考):GPA の層別化は、履修単位数の上限値(履修ガイド)と同じとした。



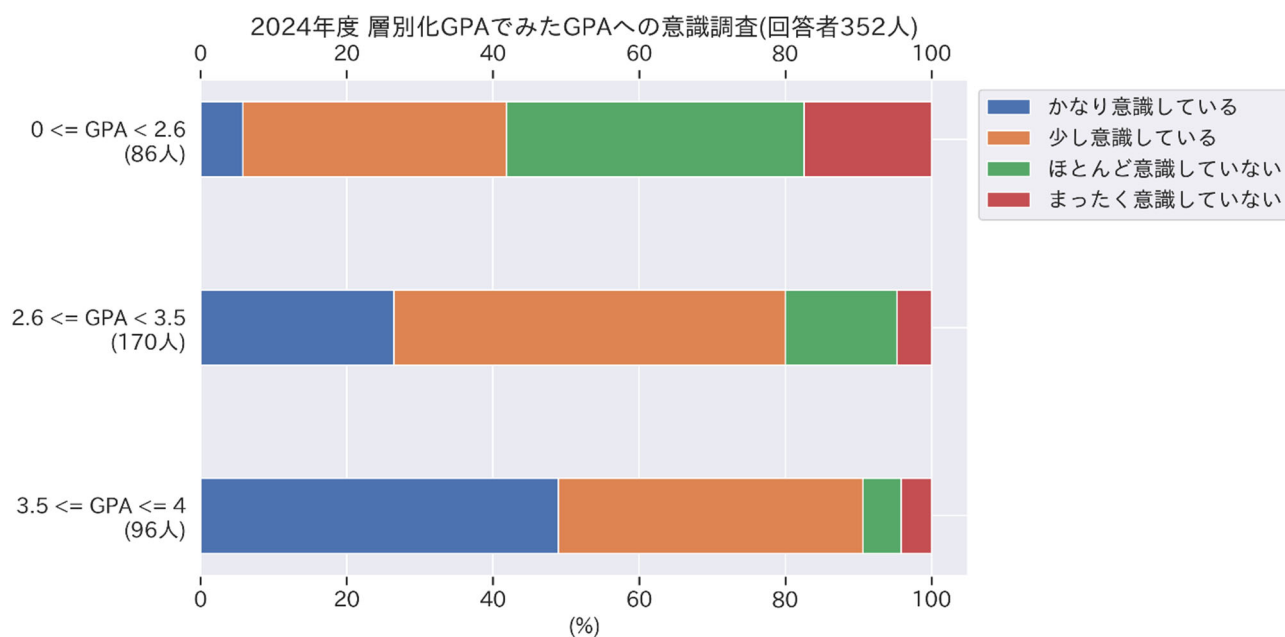
前年度から、回答者に占める GPA 3.5 以上の割合が低下した。

(2)層別化 GPA でみた学習時間に関する分析



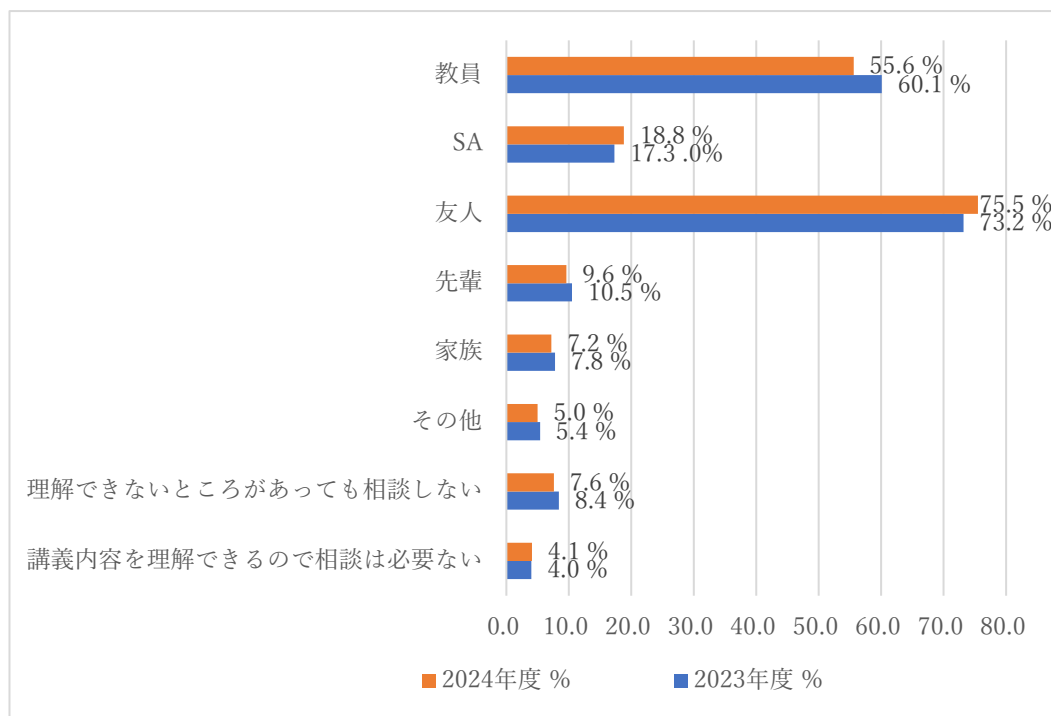
前年度から極端に大きな変化はないが、GPA3.5 以上の学生における 5 時間以下と 5～10 時間の割合が増加した。その層の学生にとって、授業が平易であり、浮きこぼれの懸念がある。

### (3)層別 GPA でみた GPA への意識分析



実際の GPA が低い学生ほど、GPA に対する意識が弱いことがわかる。GPA2.6 未満と 3.5 以上の層において、前年度より「まったく意識していない」回答の割合がやや増加した。

## 16. 講義で理解できないところがあるとき、誰に相談しますか(複数回答)

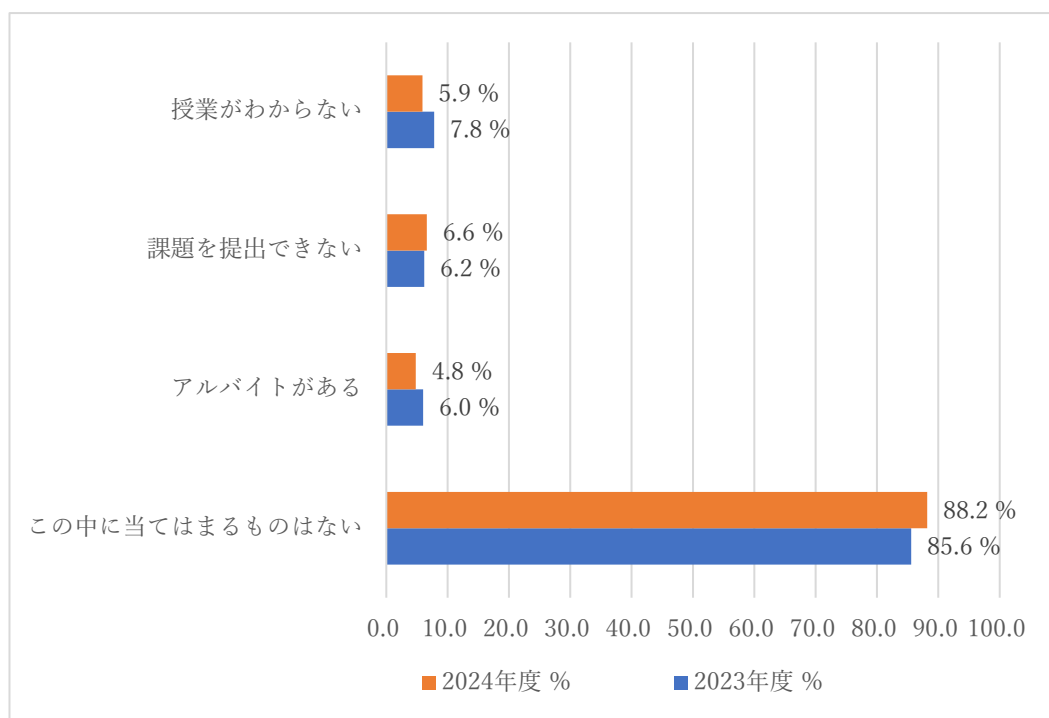


### 【コメント】

友人に相談する学生が最も多く、次いで教員へ相談する学生が多い。



17. 授業を休んでしまう理由として、あてはまるものがあれば選んでください(複数回答可能です)



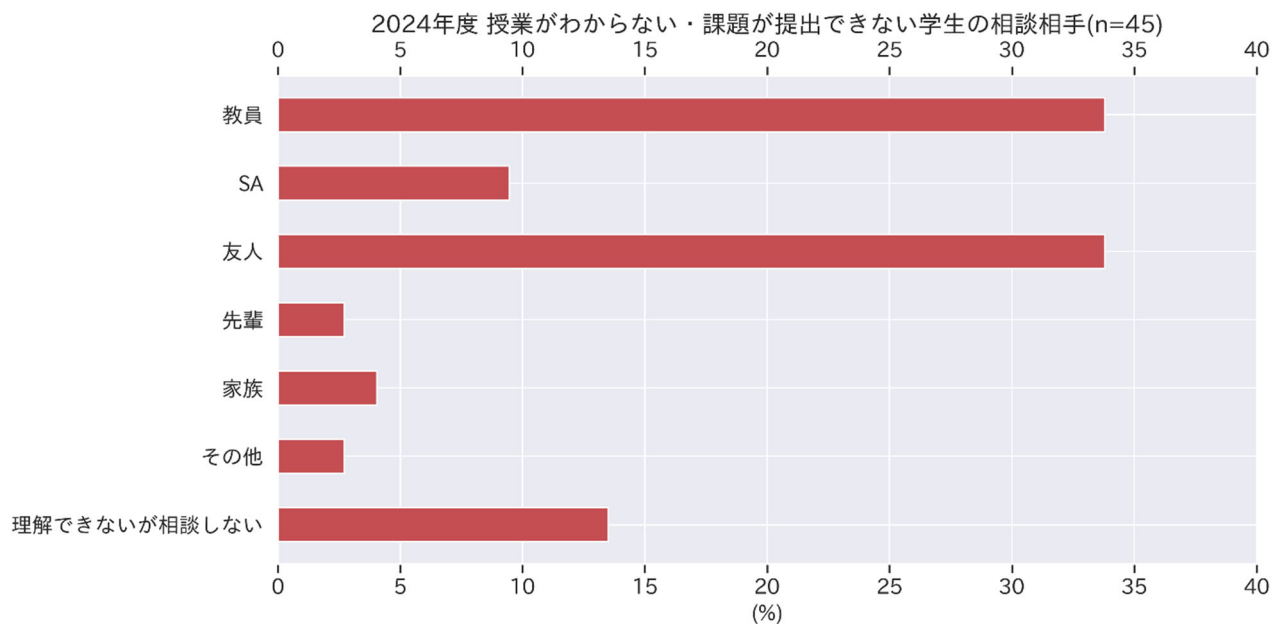
【コメント】

「授業がわからない」、「課題を提出できない」と回答した者は 12.5%となった。2023 年度と比較して割合は減少している(14%→12.5%)。

授業を休む理由として講義関係以外の要因分析が必要である。

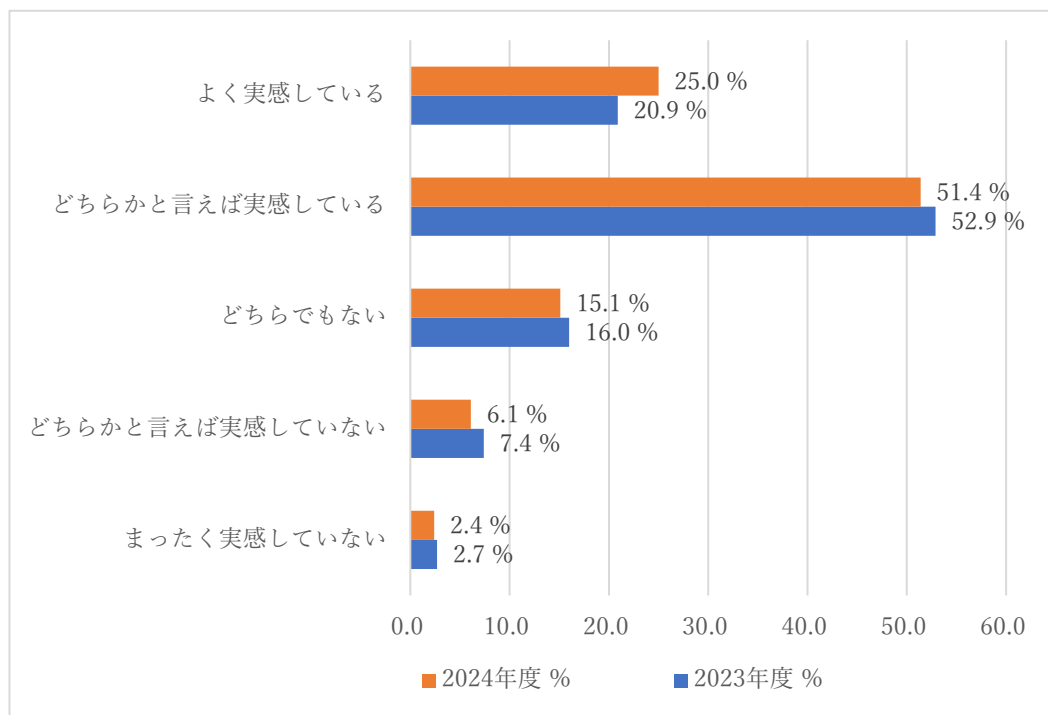
### ◆IR分析(⑤)

Q17にて「授業がわからない・課題が提出できない」と回答した学生の相談相手に関する分析



2023 年度から「理解できないが相談しない」の割合が増加した。学修意欲の低下を引き起こしている可能性がある。相談先である学習支援センターや学生チューターのより一層の周知や充実、教員が質問しやすい雰囲気意識することが必要である。

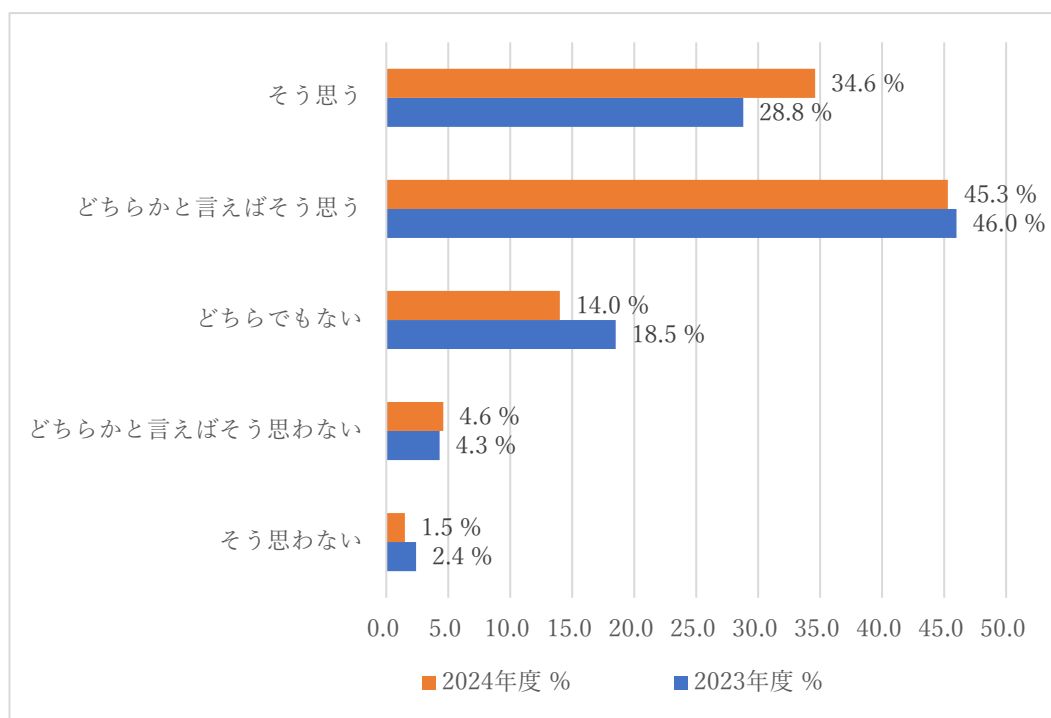
## 18. 大学での学びによって自分自身の成長を実感していますか



### 【コメント】

76.4%の学生が「よく実感している、どちらかと言えば実感している」と回答しており、問題ない。

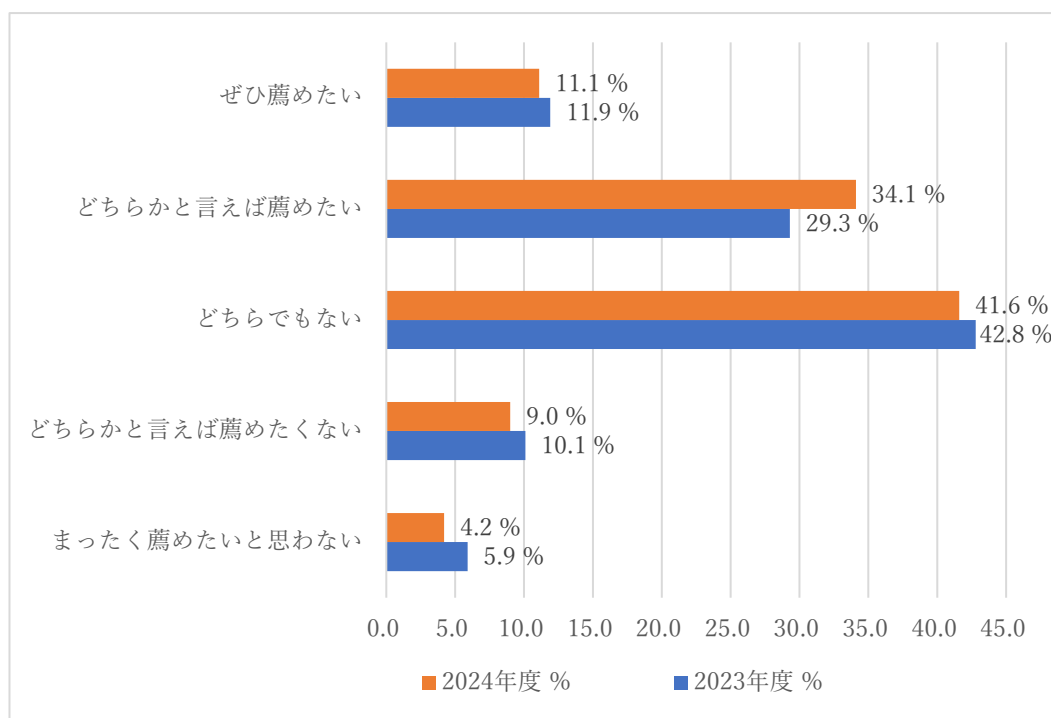
## 19. 教員が学生と向き合って教育に取り組んでいると思いますか



### 【コメント】

81.7%の学生が「そう思う、どちらかと言えばそう思う」と回答しており、教員の教育への取り組みについては問題ない。

## 20. 北海道情報大学を出身校の生徒や教諭に薦めたいですか

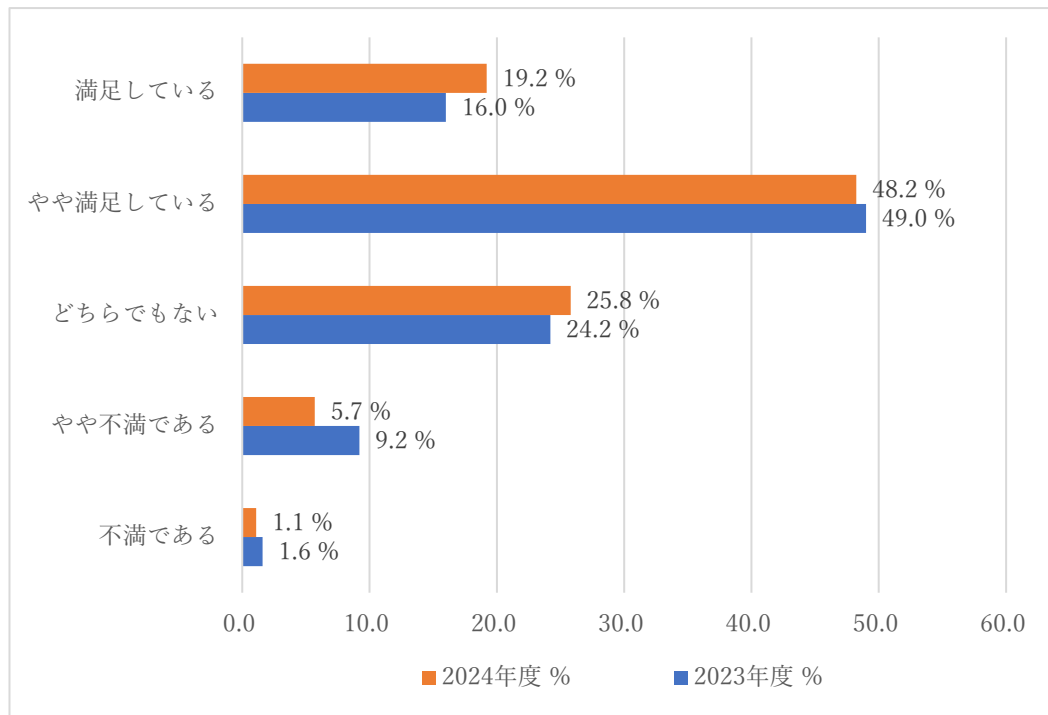


### 【コメント】

「どちらでもない」「どちらかと言えば・まったく薦めたいと思わない」とした学生が 54.8%と多い。引き続き学生が本学を進めたいと思えるように学修環境や学内の設備を整える必要がある。

ただし、「どちらかと言えば薦めたい」が 2023 年度と比べ改善されていることは良い傾向である (29.3%→34.1%)。

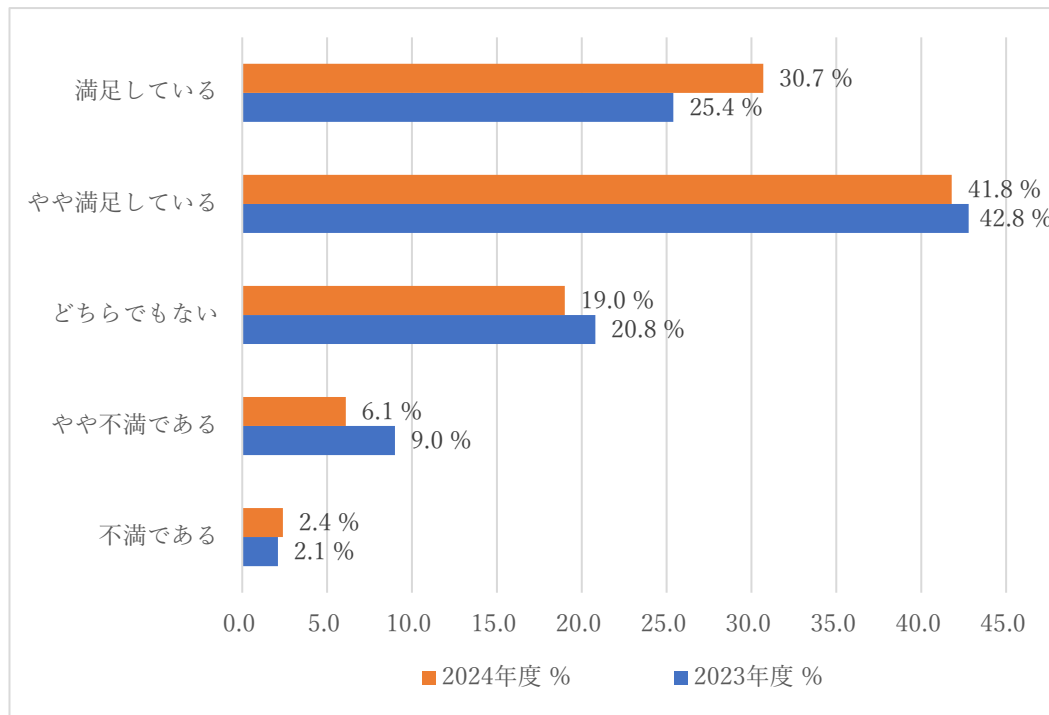
## 21. カリキュラム(教育内容)に満足していますか



### 【コメント】

「満足・やや満足している」が 67.4%であり、カリキュラム内容について問題ない。

## 22. 大学に満足していますか



### 【コメント】

72.5%の学生が「やや・満足している」と回答しており、問題ない。

## 【参考】3つのポリシー(DP/AP/CP)

### DP(概要)

- DP1 生涯にわたって自ら主体的に学ぶ力
- DP2 IT 社会に役立つ高度な情報技術と専門知識
- DP3 国際感覚やモラルなど豊かな人間性
- DP4 コミュニケーションとプレゼンテーション能力
- DP5 自ら問題を見つけ出し、情報技術を活用し自身で工夫できる問題発見・解決能力
- DP6 知識のみではなく、生きるための知恵

### AP(概要)

高等教育等での学びや諸活動、資格・検定などで得た基礎学力、基礎知識、語学力、読解力、論理的思考力、主体的に学ぶ力  
DPで示した6つの知識・能力を身に付けられる学生

### CP(概要)

「情報化社会の新しい大学と学問の創造」の建学理念に基づき、全学部学科にコースあるいは専攻を設け、DPにコース(専攻)ごとの「育成すべき人材像とコンピテンシー」を設定し、「コンピテンシーに基づく教育課程編成」を行います。すなわち、育成すべき人材像に必要なコンピテンシーを各科目と関連付けることで教育目標の達成に向けた履修科目を体系化し、教育課程を編成します。